

電子部品部活性化にむけた委員会組織の見直しと センサ・アクチュエータ製品への新規取り組み

電子部品部活性化にむけた委員会組織の見直し

1. 委員会組織見直しの目的

現在の電子部品部会の組織が発足して10年以上が経過し、ビジネスの形態、海外との競合、部品の変化等々、会員企業を取り巻く環境が大きく変わりました。また、参加企業がJEITAに参加する目的も多岐に渡っており、情報の交流は希薄になりつつあります。

このような状況のなか、電子部品部会では以下のような

な活動を行う委員会とすべく、2013年度に「組織改革TF」を設置して委員会組織の再構築を行いました。

- ① 活性化された委員会活動
- ② 当事者意識を持ち、全員参加の委員会活動
- ③ 活動内容の役割、義務が明確化され、実行できる委員会活動

2. 検討スケジュール

- ・ 2013年5月より準備会にて検討を開始
- ・ 2013年8月より2014年3月まで全体会議を計4回、幹事会を適宜開催

- ・ 2013年12月19日の電子部品部会にて委員会組織の見直しについて報告、承認
- ・ 2014年4月から新組織での活動をスタート

3. 委員会組織の見直し内容

今回の委員会組織見直し内容のポイントは以下のとおりです。

- ① 電子部品グローバル出荷統計の製品分類の再構築をもとに、製品別事業委員会（ライン委員会）組織の見直し
⇒ 綿密な市場、業界動向等の分析を可能にすることに主眼を置く
- ② 製品別事業委員会の共通ミッションとして、出荷見通し、生産見通し等の市場分析、景況分析等の活動を強化
⇒ 電子部品調査統計委員会等の課題別委員会（スタッフ委員会）と連携し、電子部品部会における業界動向・市場分析報告（景況懇談会）の活動の充実化
- ③ 製品別事業委員会の出席者が過大であり、活性化の妨げになっているため、傘下の製品別組織の独立性を高めて運営の効率化を図る。
⇒ 事業委員会はレポートのとりまとめ、予算管理に特化して委員会運営の効率化を図る。

- ④ 技術委員会と標準化委員会を統合し、技術・標準戦略委員会とする
⇒ 技術、安全、標準化を一元的に所掌し、戦略的な活動組織とする
⇒ 技術系冊子の編纂や安全に対する情報交換等、製品別事業委員会の活動と親和性の高い事業の強化
- ⑤ 製品別事業委員会に残されていた技術系委員会を課題別委員会に移行させる。
⇒ 標準化の観点では規格の改定や手法について統一的管理が可能
- ⑥ CSR 委員会の新設
⇒ リスクマネジメント、人事労務、部品環境等、各委員会に分散していた CSR 関連専門委員会を集約し、組織力を強化

2014年度 電子部品部会 委員会組織



センサ・アクチュエータ製品への新規取り組みについて

1. 2014年度電子部品グローバル動向調査について

電子部品部会では、JEITA 会員の電子部品企業を中心に2004年度より電子部品の製品別、グローバル地域別の出荷統計調査を実施しています。電子部品をグローバルな視点で捕捉、網羅した統計は世界的にも稀有であり、業界における電子部品出荷額のリファレンスとして、国内のみならず、海外メディアでも活用されております。

しかしながら、調査開始後10年が経過し、リーマンショック、中国をはじめとした新興国の台頭、スマートフォンを代表とした電子機器の変貌、自動車の電子化の

進展、対象顧客のグローバル化、等々電子部品を取り巻く環境は大きく変化しており、統計調査においても注目すべき電子部品の品目が変わりつつあります。

同部会ではこのような状況を鑑み、今後様々な分野でのキーデバイスとしての成長が大いに期待される“センサ”及び“アクチュエータ”を変換部品として調査対象に加えることを決め、2014年度から新品目による調査をスタートすることとなりました。

大品目	中品目	小分類	第4分類
変換部品	音響部品		
	センサ	光度	
		温度	NTCサーミスタ面実装形 NTCサーミスタデバイス・温度補償用 NTCサーミスタデバイス・温度センサ素子 NTCサーミスタ完成品・その他 PTCサーミスタ その他温度センサ
		圧力	
		モーション	
		位置	
		磁気・電流	
		音・超音波	
		その他	
		小型モータ	
		電磁（直動）	
		圧電・その他	
	アクチュエータ		

変換部品の品目分類

当調査では電子部品を上記の「変換部品」の他、「受動部品」、「接続部品」、そして「その他の電子部品」という4つの大きな括り（大分類）で分類した上で、さらに各々必要に応じて細品目を定義し（第4分類まで）、各品目別に集計を行っております。調査の概要は次の通りです。

- ・ 頻度：毎月実施
毎月18日頃までにデータを提出いただき、約1週間

後に集計結果（各分類 / 地域別）を返送します。

- ・ 集計方法
外部機関と NDA を締結し、集計および収集、返送作業を委託しています。
- ・ 提出データの内容
(1) 毎月の製品別地域別の出荷実績（金額と数量）
地域は日本、米州、欧州、中国、アジア・その他の5区分

(2) 3カ月先までの予測

業界合計としての前年同月比の予測値

・集計結果の公表

JEITA のホームページにて、当月の3か月前の中分類の集計結果を公開しております (http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html : 毎月末日にデータを更新)

当調査は、市場カバー率の更なる向上に向け、新たに品目追加するセンサ、アクチュエータのみならず、全ての品目において調査に参加いただける御会社を募っております。

ご興味をもたれた方は下記の担当部署までご連絡下さい。当該統計への参加費は不要です。

(一社) 電子情報技術産業協会 電子部品部

TEL : 03-5218-1056 FAX : 03-5218-1075

2. センサ専門委員会／アクチュエータ専門委員会の新設について

新たなカテゴリとして“センサ”と“アクチュエータ”を電子部品グローバル動向調査に取り込むことを受け、2014年度から変換部品事業委員会に「センサ専門委員会」と「アクチュエータ専門委員会」を新設し、これら製品に対応する委員会活動を開始することとしました。

両専門委員会では、各種調査・研究及び業界交流を通じて、加盟各社のビジネスチャンスに資する情報収集や、トピックスについてメンバー間で共有を図り、業界共通の課題の形成等により、業界として対応してまいります。

なお、定常事業として右記の活動を計画しています。

- (1) グローバル動向調査の統計品目にもとづく市場動向の分析 (定量的分析)
- (2) 業界動向や景況感に関する情報共有 (定性的分析)
- (3) 技術開発に関する情報収集
新技術の採用動向、新規用途開発の動向、技術ロードマップ、海外競合の動向等
- (4) センサ及びアクチュエータに関する事業展開の上の課題への対応 (政策提言、通商関連等)
- (5) 業界として対応すべき課題、テーマの掘り起し

「電子部品メーカーが調べた！医療機器分野参入のための医療機器へ」

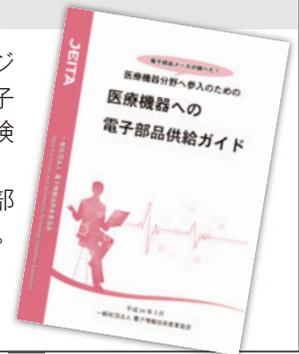
2014年3月発行

電子部品部会は、2013年「医療機器対応タスクフォース」を立ち上げ、医療機器関連のビジネスの現状、医療機器法規制、PL(製造物責任)訴訟の実態などの情報収集や研究を行い、電子部品メーカーがどうしたら積極的に医療機器分野へ参入できる環境が作られるかを検討し、その検討結果を本ガイドとして発行しました。

本ガイドは、国内のすべての電子部品メーカー(企業経営・開発・製造・販売)および電子部品の部材の購買等のあらゆる側面で電子部品の供給に携わる幅広い読者層を想定した内容となっています。

◆ JEITA HP よりご購入いただけます (会員 2,160円 / 会員外 2,160円)

<http://www.jeita.or.jp/>



「新版 磁石のはなし」

2014年4月発行

磁石についての専門書はこれまでも数多く発行されていますが、本書は永久磁石の極めて初歩から、ある程度専門的な内容までカバーした実用書です。

1994年初版が発行されましたが、今日、磁石への期待・注目はさらに高まり、関連するビジネス環境は日々刻々と変化していることから、20年ぶりに全面改訂するに至りました。本書を通して、永久磁石への理解を深めていただければ幸いです。

◆ JEITA HP よりご購入いただけます (会員 1,080円 / 会員外 2,160円)

<http://www.jeita.or.jp/>

